



春らんまん。見頃を迎えた桜の便り

例年よりも10日ほど桜の開花が遅れた今年の春。4月上旬には市内各所でも見頃を迎え、連日多くの見物客で賑わっていました。

「日本さくらの名所100選」にも選ばれた母智丘公園では、4月16日まで桜並木のライトアップを実施。昼間とは違った幻想的な桜の風景を楽しもうと、多くの市民らが訪れ、散策を楽しんでいました。



観音池公園周辺



母智丘公園



一堂ヶ丘公園



庄内町 願心寺

地道な活動が評価される

地球温暖化防止の取り組みを評価する「低炭素杯2017」で、文部科学大臣賞を受賞したNPO法人どんぐり1000年の森をつくる会が3月13日、池田市長を表敬訪問しました。低炭素杯は、次世代に向けた低炭素社会の構築を目指して、温暖化防止の取り組みや事業を評価するもので、今回で7回目の開催。全国951団体から選ばれた26団体が活動内容を発表した中で、20年にわたり同会が続けてきた、大淀川流域の緑の再生を目的とした広葉樹植栽活動が高く評価されました。

どんぐり1000年の森をつくる会受賞報告



都城の空に舞う熱気球

熱気球全日本学生選手権大会が3月18日から20日にかけて、志和池市民広場周辺河川敷で開催されました。全国12の大学から14チームが参加。選手らは、早朝の都城の空を優雅に舞いながら、設置した標的に舞い降りと呼ばれる砂袋を落としその距離の近さで、操縦技術の高さを競っていました。実行委員長を務めた白銀聡一郎さん（宮崎大学）は「多くの人に支えられて、大会を無事に開催することができた。大会をきっかけに、宮崎を訪れる人が増えるとうれしい」と感想を述べました。

熱気球全日本学生選手権大会



弓のまちで腕前競う

都城弓まつり全国弓道大会が3月25日と26日、早水公園園体育文化センターで開催されました。今年で30回目を迎えた同大会に、全国から2,800人を超える弓道家らが出場。選手らは、一般の部と中学・高校生に別かれ、28メートル離れた直径36センチの的に矢を放ち、日ごろの練習の成果を競っていました。大会に併せて、国の伝統的工芸品「都城大弓」の展示販売や、弓師・矢師による制作実演も実施。また、今年1月に完成した新弓道場の見学会も行われ、「弓のまち都城」をPRしました。

都城弓まつり全国弓道大会





みんなに親しまれてきた記録

みやこんじよ大使兼PR部長「ぼんちくん」の誕生からこれまでを振り返る、ぼんちくん展が3月30日から4月2日まで、都城市立美術館で開催されました。第1号から17年にわたって毎月発行されてきた漫画「ぼんちくん」の全ての表紙のほか、PR部長として市民の皆さんなどと触れ合う姿を記録した写真や、寄せられた手紙などを展示。最終日には、生みの親でもある、みやこのジョーこと今村幸一さんによる似顔絵のプレゼントなども行われ、来場者らは、ぼんちくんを身近に感じていました。



ぼんちくん展

地域の安心と安全を守る

都城市消防団辞令交付式が4月2日、消防局で開催されました。今年度は、大学生など65人が新たに入団。併せて、消防団OBなど、消防団員を支援する支援団員に6人が入団しました。団員らは、辞令交付を受けた後、研修や規律訓練に臨み、心構えと安全管理を学びました。大学生の下西勇馬さん(山之口町富吉)は「火災のニュースを見るたびに、自分たちの住むまちは自分たちで守りたいと強く思うようになった。早く地域の役に立てるようにになりたい」と意気込みを熱く語っていました。



都城市消防団辞令交付式

平和への誓い心に刻む

太平洋戦争中、旧都城西・東飛行場から出撃し戦死した特攻隊員らを追悼し、平和を祈願する特別攻撃隊戦没者慰霊祭が4月6日、都島公園で行われました。特攻第1陣となった8人が、西飛行場から飛び立った4月6日に毎年開催する同慰霊祭。遺族など130人が黙とうや献花で戦没者を追悼しました。花岡啓一郎さん(有水中3年)が「修学旅行先の沖縄や、今回、この慰霊祭に参加したことで、戦争の悲惨さを知った。これからは、私たちが平和な世の中をつくらせていきたい」と誓いを読み上げました。



特別攻撃隊戦没者慰霊祭

あじさい公園の魅力を再生

市と包括連携協定を締結している南九州大学の造園計画研修室の関西剛康教授と坂上純一さん(4年)が4月10日、研究内容の報告のため池田市長を表敬訪問しました。同研究は、山之口あじさい公園における効果的植栽管理と魅力度向上をテーマに、この春に卒業した3人が取り組んでいたもの。研究を引き継ぐ坂上さんは「関西教授に指導を仰ぎながら、先輩たちの研究をさらに深めて、あじさい公園の魅力度向上に役立ててもらえるよう成果を出したい」と意気込みを語っていました。



南九州大学学生の研究成果報告

市民サービスが向上しました

マイナンバーカードを活用した各種証明書コンビニ交付サービスの開始に伴い、オープンングセレモニーを4月12日、ファミリーマート都城市役所前店で開催しました。サービス開始を宣言するテープカットの後、池田市長が住民票交付のデモンストレーションを実施。その便利さを確認しました。全国約5万店のコンビニエンスストアなどのマルチコピー機で、午前6時30分から午後11時まで住民票の写しや印鑑登録証明書などが取得できるこのサービス。マイナンバーカードの取得がまだの人は、ぜひ早めに取得してください。



コンビニ交付サービスを開始



人 風景

smiling faces of miyakonojo

桜の開花が少し足踏みした4月、山之口麓文弥節人形浄瑠璃資料館（人形の館）で、独特の節回しを三味線の音色に乗せて、演目の稽古に励んでいるのが、10代目義太夫の村岡純秋さんです。

村岡さんが属する山之口麓文弥節人形浄瑠璃保存会は、国指定重要無形民俗文化財を、代々地域住民で受け継いでいます。村岡さんが入会したのは28歳（昭和39年）のとき。旧山之口町役場の文化振興担当をしていて、保存会の会員らから「担当者が人形を扱えなくてどうする」と言われ、仕方なく入会したのが始まりと懐かしみます。

先代義太夫の坂元鐘一しやういちさんに厳しく手ほどきを受けた村岡さん。「人形の視線の動きにまで厳しかったが、情感を込めて演じると師匠が満面の笑みで褒めてくれた」と誇らしげに話します。

人形師として25年が経ったころ、坂元さんから10代目の義太夫として指名された村岡さん



山之口麓文弥節人形浄瑠璃と 共に歩んだ半世紀



10代目義太夫
村岡 ^{すみあき}純秋さん

—プロフィール—

山之口町山之口在住
山之口麓文弥節人形浄瑠璃
保存会事務局長
平成21年度宮崎県文化賞受賞



ん。「今の私と同じ81歳だった坂元さんの期待に応えたいと、それまで以上に稽古に励むようになった」と感慨深く話します。

初めて人前で義太夫を務めたのは、目の肥えた地元の高齢者が集まる定期公演。自信がなかった村岡さんは、坂元さんが隣に寄り添ってくれ、舞台に立つことが出来ました。「背中に汗が流れるのが分かるほど緊張したことを今でも覚えている」と笑います。

平成4年に、人形の館の落成式公演で義太夫として独り立ちし、今年、25年目を迎える村岡さん。「義太夫になったばかりのころ、演目の阿古屋住家の段は、音階や節回しが独特で難しく、2年ほど人前で披露できなかった」と台本を見つめ、当時を振り返ります。朱書きの記号がびっしりと書き込まれた台本は、今でも村岡さんの宝物。その後、平成5年に出された山之口麓文弥節人形浄瑠璃調査報告書で村岡さんの義太夫が評価され「義太夫を務める自信となった」と微笑みます。

来月18日、100回目を迎える同保存会の人形の館での定期公演。村岡さんは「演目の牢舎の段は、初めて見る人にも分かりやすい。たくさんの人に見てほしい」と今から意気込んでいました。

